

2026年度 一般選抜

国 語

〈全学部全学科共通問題〉

2月1日実施 B日程

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2. 本冊子には、13ページの問題文があります。
3. 解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4. 監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字6桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5. 解答科目欄には、解答する科目を1つ選び、マークしてください。
6. 解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 解答番号は～です。～の解答欄には何も記入しないでください。
8. マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムでていねいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9. 解答時間は、60分です。

問題1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、*印の付いた語句には、文末に注があります。

「ナチスは良いことでした」という議論が、定期的に繰り返されている。

最近の事例としては、二〇二二年二月に、小論文を教える予備校講師のツイートがちよつとした騒ぎとなった出来事が挙げられる。そのツイートは、指導する女子高生が「ヒトラーのファンでナチスの政策を徹底的に肯定した内容」の小論文を提出したが、「文体が完璧^a」でテンサクに困った、というものだった。

二〇二二年七月には、ドナルド・トランプ大統領が在任中の二〇一八年に大統領首席補佐官ジョン・ケリーに対し、「ヒトラーは良いことをたくさんした」と発言したと報じられた（トランプ自身はそれを「フエイクニュース」であるとして、発言したこと自体を否定している）。ドイツでも状況はそれほど変わらない。二〇〇七年に、あるニュースキャスターが家族政策やアウトバーンなどナチスの政策には良い面があったという趣旨の発言をして、世論を二分する騒動になったことがある。

「ナチスは良いことでした」という議論は、なぜこれほどまでに沸騰するのだろうか。そもそも「良いこと」とは何なのだろうか。

まず考えてみたいのは、「ナチスは良いことでした」とあえて発言することがもつ意味合いだ。何を「良いこと」「悪いこと」と考えるかは最終的には個人の価値観の問題だとするならば、そもそもなぜこのようなことが議論になるのかわからない、人それぞれ考えが違ふということではないかという立場も、あり得ると言えはあり得る。

しかし実際には、そのような立場はほとんどの人にとって受け入れがたいものとなる。それはおそらく、「ナチスは良いことでした」という場合の「悪いこと」について、ほぼ共通理解があるからだろう。戦争、ホロコースト、障害者に対する「安楽死」、政治的な敵対者に対する抑圧などがそれである。これらを「良いこと」とであると表明することは、現代社会においてけつしてキヨヨウ^bされない。「良いこと」だと主張する人が時々あらわれることはあるが、幅広い共感は得られな

い。

前述の女子高生による小論文は、「虐殺の有用性」を肯定する内容だったことが後に明らかになった。それもあつてか、^アネット上での議論も急速に冷めていつた。

ここからもわかるように、現代社会においては、ナチスには良くも悪くも「悪の極北」のような位置付けが与えられている。ナチスは「私たちはこうあつてはならない」という「絶対悪」であり、そのことを相互に確認し合うことが社会の「歯止め」として機能しているのである。「ナチス」と名指しされて、それを受け入れる人は現代社会にはほとんどいないだろう。自分はナチスとは違つて、否定する人間が大多数ではないだろうか。

こうした意味で、ナチス認識はその A である「私たちの社会はこうあるべき」という、「政治的正しさ (ポリコレ=ポリテイカル・コレクトネス)」と密接につながっている。

そしてまさにこの点こそ、少なくない人びとが「ナチスは良いことでした」と語りたくなる原因がある。

一つには、「物事にはつねに良い面と悪い面があるのだから、たしかに戦争やホロコーストなどは悪いことだったかもしれないけれども、探せばいろいろと良い面もあつたのではないか」という、それ自体としては真つ当な疑問がある。民主的に選ばれた政権だ、アウトバーンを作つた、失業率を低下させた、経済を建て直した、^{*}歓喜力行団で誰でも旅行に行けるようにした、有給休暇^cをカクシエウした、禁煙政策を進めた、先進的な環境政策をとつた、制服が格好いい、などなど。本書で詳しく検討するように、これらには事実認識として誤つているもの、事実関係は間違つていないが各々の政策が置かれている歴史的な文脈への理解が不十分なもの、数多く含まれている。さらには、多くのドイツ人が熱狂的にナチ体制を支持していたのだから、少なくとも当時は「良い」ことと思われていたのではないか、という意見もある。「当時の人びと」の価値観はけつして一枚岩ではないし、支持していたことと「良い」と思われていたことはイコールでもないのだが、と

もあれきちんと考えてみる必要のある意見ではある。

ただし「歴史に善悪を持ち込むな」「尺度は時代や文化で変わる」という、しばしば見られる（そして一見正論に見える）議論については、ここで一言述べておく必要があるだろう。

私たちが過去を振り返るとき、そこにはつねに「切り取る」という行為が付いて回る。たとえば、朝起きて顔を洗い、ヒゲを剃ってからご飯を食べる。家を出て駅に向かい、職場に到着する……。いずれも私自身の「過去」であるが、そのような「過去」を普段の私は振り返ろうとは思わないし、記録したいとも思わない。あまりにありふれていて、振り返る必要を感じないからだ。しかしたとえば東日本大震災のときに自分はどのような生活を送っていたか、コロナ禍のもので何を感じていたかということは、後になって振り返る必要を感じるかもしれない。「平時」ではない時期に生じる「断絶」や「変化」に、歴史研究者としての「私」が強い関心をもち、そうした一側面を「切り取る」ことに大きな意味を見出すからだ。

歴史家E・H・カーは『歴史とは何か』のなかで、もう少しコウシヨウな例を用いて同様のことを説明している。カエサル以前も以後も何百万人もの人びとがルビコン川を渡っていたかもしれないが、そのことを誰も何とも思わない。カエサルがルビコン川を渡ったという事実が指摘されるのは、歴史家がそこに大きな歴史的重要性を見出すからこそなのだ、と。

何が言いたいかといえば、過去を「切り取る」ときに自分のその時々の立場性とまったく無縁でいることは不可能だし、そもそもそれは歴史研究の現実と著しく乖離している、ということだ。「歴史的事実は「純粋なまま」でわたしたちのところにはやって来ない。なぜなら歴史的事実は純粋な形態では存在しないし、存在しえないから」だ。何を注目し値する問題と見なし、何をどのように切り取るか。そこに一人ひとりの主体性や個性が発揮される。

しかしだからといって、どのように切り取っても叙述しても自由ということにはならない。切り取り方や叙述の仕方の妥当性（そして、そもそも切り取ってきたものが「正しく」過去を反映しているか）は、厳しいチェックの目にさらされる。

キャロル・グラックが指摘するように、過去は「歴史家や社会が歴史を語るべく選択した物語の中に……隠れて存在する」のだ。過去は単なる「素材」であって、現在の立場や必要性からそれを自分の好きなように「加工」してよい、ということにはならないのである。

善悪を持ち込まず、どのような時代にも適用できる無色透明な尺度によって、あたかも「神」の視点から B 的に叙述することが歴史学の使命だと誤解している向きは多い。端的に言つてそれは間違いだし、そもそも不可能である。誰もが社会のなかで生きていて、そこから何らかの影響を受けており、それぞれに価値観をもっている。人びとがそれぞれに過去を自分の立ち位置から切り出してくるなかで、切り取られてきたものの妥当性を相互チェックするというのが学問本来のあり方だろう。^ウ「無色透明」な歴史叙述という不可能な到達点をめざすのではなく、自分にも他人にも色があることを認めた上で、相互チェックによって誤りや偏りを正していくということである。

実はもう一つ、少なくない人びとが「ナチスは良いこともした」と語りだがる理由がある。そういう主張によって、現代社会における「政治的正しさ（ポリコレ）」をひっくり返すことができるのではないかと考えられているのだ。ただし、これについては本書の「おわりに」でもう少し詳しく説明することにして、ここではさしあたって、次のことを確認するにどめておきたい。すなわち、「ナチスは良いこともした」という主張には、歴史学の立場から丁寧に「話せばわかってもらえる（かもしれない）」次元と、議論する者それぞれの立場性に絡む「話してもわかり合えない（かもしれない）」次元の両方が含まれている、ということである。【 I 】

歴史的事実をめぐるこうした問題を別の観点から整理すると、^エ〈事実〉〈解釈〉〈意見〉の三層に分けて検討することができるかもしれない。

歴史学は何らかの形で事実性に立脚しなければいけない。それに反するものは主張の根拠とすることはできない。この点にはほとんどの人が同意するだろう。ここで「事実」ではなく「事実性」という言葉を使ったのは、たとえば一九三三

年一月三〇日にヒトラーが首相に任命されたという揺るぎない「事実」だけでなく、先ほど述べたような、当時の人びとがどう思っていたかという「心性」のような問題も歴史学は扱うからだ。その場合、日記でも手紙でも、裁判記録でも聞き取り調査でも、とにかく検証可能な何らかの形の根拠にもとづいていなければならない。【 Ⅱ 】

そういう意味で、本書でも後で説明するように、「ヒトラーはアウトバーン建設によって経済を回復させた」という主張は、端的に言って事実には即していないし、「ナチスの制服が格好いいのはヒューゴ・ボスがデザインしたからだ」というしばしば見られる主張も、根拠のあるものと見なすことはできない。ボスが制服を卸していたのは事実だが、デザインしていたという事実は確認されていないからだ（ボスがファッション・ブランドになったのは戦後のことで、ナチ時代は制服を卸す縫製工場の一つにすぎなかった）。

もともと、こうした〈事実〉のレベルで片付けられる問題は、実はそれほど多くない。歴史学においておそらくもともと重要な、C 社会においてしばしば非常に軽視されがちな点が、二番目の〈解釈〉の層、歴史研究が積み重ねてきた膨大な知見である。

たとえばナチスの家族政策を例に考えてみよう。ナチ体制下では将来の兵士や労働力を産み育てることが強くもとめられ、出産に対して様々な報奨制度が存在した。結婚に際しては貸付金が与えられ、子どもを一人産むごとに返済額が四分の一ずつ免除された（つまり四人産めば全額免除となった）。全国母親奉仕団が母親学校をカイサイし、主婦・母親としての訓練を施した。全国二万五〇〇〇カ所の母親相談所では、母親への助言や情報に加え、乳児の下着や子ども用ベッド、食料品などの現物支給も行われ、一〇〇〇万人以上の母親がそうした支援を受けた。会社内には幼稚園が設けられ、ケースワーカーが生活問題全般の相談に乗った。親衛隊の「生命の泉」では未婚の母への支援も行われた。

これだけ〈事実〉を列挙すると、「やっぱりナチスは良いことしたではないか」と感じる人が多く出てきても不思議ではない。現在の政府によるお粗末な子育て支援よりもはるかに充実しているのではないかと、羨ましく思う人もいるかも

しれない。事実、「女性に様々な配慮をしていたナチス・ドイツは、子育て天国だったのだ」と主張する本も出版されている。だが歴史研究が取り組んできたのは、こうした家族政策がどのような文脈で、どんな政策とセットで行われたのかという問題だ。【 III 】

ナチスの家族政策に関して忘れてならないのは、こうした支援策の対象となつたのが、①ナチ党にとって政治的に信用でき、②「人種的」に問題がなく、③「遺伝的に健康」で、④「反社会的」でもない人びとだけだったという点である。社会主義者や共産主義者などの政治的敵対者やユダヤ人、障害者や「反社会的分子」とされた人びとは、そこから排除されていた。しかもナチ体制下では、地方保健機関の発行する「婚姻健康証明書」で遺伝的健康が証明できなければ結婚できなかったし、子どもを産まない「繁殖拒否者」には罰金が科されていた。さらに障害者に対しては、まずは強制断種（四〇万人）、さらには「安楽死」（三〇万人）という名の殺害が行われた。同性愛者も迫害を受け、五万人に有罪判決が下されている。そのうち強制収容所に送られたのが五〇〇〇〜一万五〇〇〇人、死者は三〇〇〇人程度とされる。ナチスの家族政策は、こうした人種主義的な「民族共同体」を構築するための手段の一つだったのだ。さらに言えば、結婚資金貸付制度も当初は女性が仕事を辞めることを給付の前提としていた。ナチスは少なくとも政権初期段階では「反女性解放」を掲げる体制でもあった。

「目的や文脈などはどうでもいい、良いものは良いのだ」と感じる人も、ひょっとしたらいるかもしれない。たしかに三つ目の層である〈意見〉は最終的には個人的なものであるから、そのような考えをもつこと自体を止めることはできない。ただしそこでぜひとも知っておいてもらいたいのが、ドイツ語の「Tunnelblick」という言葉である。そのまま日本語に訳すと、「トンネル視線」とでもなるだろうか。自分にとって都合の良いところ（この場合は「ナチスの良いところ」）だけを照らし出し、それ以外が見えなくなっている状態を指す。

【 IV 】

〈解釈〉という層が非常に重要である理由が、まさにこの点にある。歴史研究の蓄積を無視して、〈事実〉のレベルから〈意見〉の層へと飛躍してしまう

と、Dが見えないまま、個別の事象について誤った判断を下す結果となることが多いのである。そうした目的や文脈を含めてもなお「良いこと」と強弁することは可能かもしれないが、現代社会においてそれが共通了解となることはおそらくないだろう。(中略)

もちろん、歴史研究者も万能ではない。思い違いをすることもあるし、他者の批判を受けてようやく認識の不足に気付くということもある。しかしだからといって、〈解釈〉の層を飛び越してよいということにはならない。〈事実〉から〈意見〉へと飛躍することの危うさは、何度でも指摘しておく必要があるだろう。〈意見〉をもつことはもちろん自由ではあるが、それはつねに〈事実〉を踏まえた上で、〈解釈〉もある程度はおさえたものでなくてはならない。

(小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』)

[注] *1 歓喜力行団…ナチス政権下で、国民に旅行や演奏会・スポーツなどのレジャーを提供した組織。

問一 傍線部a～eに相当する漢字を含むものを、次の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a テンサク (1ページ本文5行目)

- 1
- ① 彼がキテンをきかせて、その場を丸く収めた。
 - ② メールに見積書をテンプするのを忘れた。
 - ③ この事業のテンボウを聞かせてください。
 - ④ 私にとってこの仕事はテンシヨクである。

b キョウウ (1ページ本文24行目)

- 2
- ① 人のヨウシに対する発言は控えるべきだ。
 - ② ヨウツウに効果的なストレッチを知りたい。
 - ③ この文章の内容をヨウヤクして説明する。
 - ④ 近所にパイロットをヨウセイする学校がある。

c カクジユウ (2ページ本文21行目)

3

- ① 駅にタイカクのいい人が集まっていた。
- ② 魚のランカクは以前から問題となっている。
- ③ その家屋は住宅街からカクゼツした場所にある。
- ④ その誤った情報はSNS上でカクサンした。

d コウシヨウ (3ページ本文15行目)

4

- ① 恩師をパーティーにシヨウタイした。
- ② 原簿とデータをシヨウゴウする。
- ③ そこまでの変更は時期シヨウソウだろう。
- ④ 物語にはキシヨウ転結がある。

e カイサイ (5ページ本文21行目)

5

- ① 貸した本を早く返すようにサイソクした。
- ② 欠席した学生にキユウサイ措置をとる。
- ③ この価格で売ってもサイサンはとれない。
- ④ アイデアがサイゲンなく広がっていく。

問一 傍線部ア「ネット上での議論も急速に冷めていった」とありますが、その理由の一つとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

6

- ① 「虐殺の有用性」などないことは、実証的に説明し尽くされているから。
- ② 「虐殺の有用性」を肯定する意見は以前からよくあるもので、珍しくなかったから。
- ③ 女子高生が批判を受けて、「虐殺の有用性」を肯定する意見を撤回したから。
- ④ 「虐殺の有用性」を肯定することは、多くの人にとって受け入れられない「悪いこと」だから。

問三 空欄 **A** に入る語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 7 ① 生みの親 ② 副産物 ③ 上書き ④ 裏返し

問四 傍線部イ「歴史研究の現実」の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 8 ① 過去の切り取りが妥当であるか、切り取ったものが過去を正確に反映しているかを厳しくチェックされる。
② 自分の立場性を可能な限り排除して、過去を切り取ることが要求される。
③ 「平時」ではない時期に、自分のありふれた過去がいかに歴史とながっているかを考察する。
④ カエサル以前に誰がルビコン川を渡ったのかというような、誰も何とも思わないことに意味を見出す。

問五 空欄 **B** に入る語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 9 ① 挑戦 ② 超越 ③ 平和 ④ 継続

問六 傍線部ウ「無色透明」な歴史叙述という不可能な到達点とありますが、「無色透明」な歴史叙述が「不可能」であるとはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 10 ① 人びとの知識や経験にはばらつきがあり、万人にとってわかりやすい歴史叙述を確立することは困難であるということ。
② 歴史上の出来事は「当時の人びと」の価値観が反映されているという意味で客観的なものではないので、客観的な叙述もできないということ。

- ③ 過去を「切り取る」ときには必ずその人の主体性や個性が入り込むので、歴史的事実を中立的な立場から叙述することはできないということ。
- ④ 誰に対しても公平な歴史叙述を行うためには歴史上のあらゆる事実を調査しなければならないが、それはどうやっても不可能であるということ。

問七 傍線部エ「〈事実〉〈解釈〉〈意見〉」に関する説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 11
- ① ナチスが良い、または悪い政策を実施したというのが〈事実〉で、その政策が実施された文脈を探るのが〈解釈〉、〈事実〉の正誤の判断が〈意見〉である。
 - ② ナチスが実施したある政策の文脈が〈事実〉で、どのような政策なのかを探るのが〈解釈〉、文脈の良し悪しの判断が〈意見〉である。
 - ③ ナチスがある政策を実施したというのが〈事実〉で、その政策が実施された文脈を探るのが〈解釈〉、政策の良し悪しの判断が〈意見〉である。
 - ④ ナチスがある政策を実施したというのが〈事実〉で、〈事実〉の正誤を判断するのが〈解釈〉、その政策が実施された文脈の良し悪しの判断が〈意見〉である。

問八 空欄 C に入る語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 12
- ① しかし
 - ② そのため
 - ③ まるで
 - ④ つまり

問九 空欄 D に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 13
- ① 「未来像」や縮尺
 - ② 「未来像」や文脈

- ③ 「全体像」や縮尺 ④ 「全体像」や文脈

問十 次の一文が入る最も適切な場所を、次の①～④から一つ選び、番号で答えなさい。

もちろん過去のすべてが記録に残っているわけではないから、推測を迫られることもあるが、そうであっても、すでに明らかになっている事実性に矛盾するような推測は許されない。

- 14 ① 【 I 】 ② 【 II 】 ③ 【 III 】 ④ 【 IV 】

問十一 本文の内容と一致するものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 15 ① 何を「良いこと」「悪いこと」と考えるかは個人の価値観の問題なので、人それぞれ考えが違ふことを認め、尊重し合わなければならない。
- ② 歴史研究のおもしろさは過去という「素材」を自分の好きなように「加工」してよいことだが、「加工」が行き過ぎると「ナチスは良いこともした」と主張することにもなりかねない。
- ③ 「ナチスの制服が格好いいのはヒューゴ・ボスがデザインしたからだ」というしばしば見られる主張は、そのような事実が確認されていないという理由で根拠があるものとはいえない。
- ④ 自分にとって都合の良いところ以外が見えなくなるのは当然のことだが、人びとの「Tunnelblick」を集積することで歴史の多様な見方を知ることができる。

問六 次の【 】内のようなときに用いる表現として、適切なものはどれですか。

21 【アルバイト中に客から店長の居場所を尋ねられた際の返答】

- ① 店長は出かけております。
- ② 店長さんは出かけております。
- ③ 店長は出かけていらっしゃいます。
- ④ 店長さんは出かけていらっしゃいます。

問七 次はある作品の冒頭です。この作品の作者は誰ですか。

つれづれなるままに、日暮らし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

- 22 ① 清少納言 ② 藤原定家 ③ 兼好法師 ④ 松尾芭蕉

問八 最初の勅撰和歌集で、紀貫之らが撰者となった歌集はどれですか。

- 23 ① 古今和歌集 ② 万葉集 ③ 金槐和歌集 ④ 拾遺和歌集

問九 プロレタリア文学の作品でないものはどれですか。

- 24 ① 海に生きる人々 ② 蟹工船
③ 太陽のない街 ④ 機械

問十 夏目漱石から激賞された芥川龍之介の作品はどれですか。

- 25 ① 鼻 ② 刺青 ③ 歯車 ④ 或る女

